

## ユビキタス資源

日本赤十字放射線技師会会長 益井 謙

新年明けましておめでとうございます。

健やかな新年をお迎えでしょうか？

医療現場に年末も年始もありませんから、心の錨を下げたり上げたりする事で、年末年始にけじめ付けている会員がほとんどだったと思っています。特に、赤十字の看板を背負い、赤い十字架を担っての医療活動は、他の組織の放射線技師と負担の嵩（かさ）が違い過ぎて居ます。

本社もその特化した存在を礎にして、時代のうねりを乗り切りたいとしていますし、「もっとクロス」の標語一下、組織の結束を促し、世間の理解と融和を図っています。

我々の会は、既に「HP」や「ML」で縦横無尽にネットワークを張り、施設の文化や、個々の個性を尊重し、全国的にその文化の橋渡しを行い、無形のスキルを具象化するシステムを構築運用して来ました。

鉱物資源のレアアースは、その希少性と偏在性により需要と供給のバランスを取るのが難しく、時代の汚れと焦燥を禍々（まがまが）しく被ってしまいます。

一方、何処にでもありふれて存在し、何時でも入手できる資源を「ユビキタス資源」と言い、今や、その手短でふんだんに存在する原料を資源化して、レアアースに匹敵凌駕する技術革新の方策を練られています。

赤十字の人的資源は、レアアース的な稀少性も偏在性ではなく、無尽蔵に身近にあるユビキタス資源であります。それは、学術分科会や、学術総会、日赤医学会を通じて、人材の宝庫（原石を含めて）と確信しましたし、HPに蔵書として保管された様々な文書からも実感されます。我々は、その旗幟を4年前から鮮明にした、「ユビキタス技師会」としてユビキタス時代に即応させて居ります。

そして、その豊富で潤沢なユビキタス人的資源を誇りにしていますし、その資源活用について不謹慎にも、我々ユビキタス技師会が深く関わっていきたいと思っています。

本年も、ユビキタス日本赤十字放射線技師会をよろしくお願い致します。